

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 25

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		生涯学習推進事業				
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
	氏名	高橋健仁		氏名	大和良成	
事業の概要	町民のライフステージやニーズに応じ、生涯にわたり学び・学習の活動を続けていくために、講座及び学習会等を開催する。				全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	
					国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	3,550 千円
					事業費計	3,550 千円
実施方法	直営	民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~			
	基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
	単位施策	2	学習・スポーツ活動の推進			
	事務事業の種類		自治事務	法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	816 千円	547 千円	377 千円	650 千円	650 千円
	合計	816 千円	547 千円	377 千円	650 千円	650 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	的確な生涯学習ニーズの把握とその活動支援対応	各学級・講座の開設数	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町民個々のキャリアアップと趣味・娯楽等として新しいものを学び続けるとともに、継続した学習を通して自己を高めていく。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
		生きがい大学(9/10)	目標年度 22年度
		町民大学(4/4)	目標値 17 回
		成人講座(1/3)	実績値 14 回
達成度	82.4 %		
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	町民のライフステージに応じた学び意欲等の醸成及び高揚	目標年度	
		目標値	
		実績値	
		達成度	%
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
生きがい大学	全9回の開催 ~ 講話・学習会・芸術鑑賞会・スポーツ交流・西紋地区交流会		
町民大学	全4回の開催 ~ 「ツボをたたくて運を呼び込む健康体操(田邊潤)」、「男性にも更年期障害(松本成史)」、「一往復半のコミュニケーション(長谷川聡)」、「チーズは生き物・食の安全安心(半田司)」		
成人講座	書道教室		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	町民が生涯のいつでも自由に学習機会を享受可能な生涯学習社会構築の観点から、多様な学習ニーズの支援は重要であることから当該事業の開催は必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	近隣市町村との合同事業の開催日程の変更等により一部事業を実施できなかったが、概ね目標を達成でき期待する効果が得られた。
	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	町民ニーズに対応したプログラム内容に工夫するなど、様々なジャンルでの実施とともに、参加率の向上と事業費精査を行いつつ効率的な実施を図った。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民全てが参加できるように年代別に配慮した事業内容で実施することにより機会の均等化を図り、公平性を保った。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
止むを得ない理由による事業の中止以外は、計画通りに実施でき、効果的に事業の推進を図ることが出来た。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持 継続した事業の実施を図ることで、多様な学習の機会が提供でき、地域における生涯学習への理解と学習への意欲向上の推進が必要である。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 26

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		武雄市児童交流事業					
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係		
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長	
	氏名	高橋健仁			氏名	大和良成	
事業の概要		児童を武雄市に派遣すること及び武雄市児童を受け入れることによって異なる地域の気候や生活、文化に対する理解と寛容を養うために地域間交流を図っている。			全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 2,160 千円 一般財源 10,296 千円 事業費計 12,456 千円		
実施方法		直営	民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B		
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~				
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
		単 位 施 策	3 青少年教育の推進				
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務			
		その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	390 千円	360 千円	360 千円	480 千円	480 千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	1,785 千円	1,547 千円	1,487 千円	2,520 千円	2,537 千円	
	合 計	2,175 千円	1,907 千円	1,847 千円	3,000 千円	3,017 千円	

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小学生(5年生・6年生)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	より多くの異文化や気候風土のための体験機会の確保	派遣児童16名、引率者3名 受入児童16名、引率者4名	指標(指標計算式/解説)
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	体験による生きる力の醸成とリーダーの養成	派遣児童及び引率者	目標年度 22年度
			目標値 19名
			実績値 16名
			達成度 84.2 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果=目的	実施後の学校及び家庭生活等でのリーダーの期待と学ぶ意欲の促進	受入児童及び引率者	目標年度 22年度
			目標値 20名
			実績値 20名
			達成度 100 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
派遣	町内各小学校児童12名、引率者4名派遣、現地では学校交流やホームステイを体験。		
受入	武雄市児童16名、引率者4名を受け入れ、学校交流、ホームステイ、雪遊びを体験。		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	気候、風土の違う地域との文化的・教育的な交流は、地域児童の情操教育、郷土意識の向上及び健やかな変容を図るため必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	派遣人数は計画通りではなかったが、本町とは違う気候や風土、生活習慣を体験でき、豊かな人間性とたくましい心が養われた。
	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事前調査により交通手段、日程等の工夫を行い経費削減に取り組んでいる。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	5年生以上の全児童を対象として、希望者について等しく参加を認めているとともに適切な受益者負担を求めており、公平性を保っている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
児童の体験交流により本事業の目的に沿う事業の実施が出来た。		

今後の展開方向 (Action)	↓ ↓ ↓		
	継続 / 現状維持		
地域間交流等の体験をとおして、それぞれの次代を担う青少年の育成が図れることから、継続が必要である。			
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 27

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		家庭教育推進事業				
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
	氏名	高橋健仁			氏名	大和良成
事業の概要	休日の拡大に伴い、地域や家庭における教育の役割も増大しており、教育力の低下も叫ばれている中で、子育てをする上でもっとも大切な場である家庭での教育の在り方等、学習機会の支援を行う。				全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	
					国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	2,000 千円
					事業費計	2,000 千円
実施方法	直営	民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~			
	基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
	単 位 施 策	3	青少年教育の推進			
	事務事業の種類		自治事務	法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	291 千円	294 千円	252 千円	400 千円	400 千円
	合 計	291 千円	294 千円	252 千円	400 千円	400 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	低下が叫ばれる家庭教育環境の向上と、多くの学習機会の支援及び情報共有	学級数と参加者		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	充実した家庭教育環境の醸成と家庭教育を支援する地域づくり	開設学級	指標(指標計算式/解説)	
			目標年度	22年度
			目標値	13 学級
			実績値	6 学級
達成度	46.2 %			
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	家庭・学校・地域・関係機関とのネットワークの構築と学校教育・社会教育との連携	学級及び講演会参加者	目標年度	22年度
			目標値	300 名
			実績値	346 名
			達成度	115.3 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
家庭教育学級の促進	雄武小学校の6学級を開設し、親子でレクリエーションや調理実習を行った。 (各PTAの創意、工夫で実施している)			
家庭教育講演会の実施	講演会(露の団六「笑いは生活の必需品」)の開催 (雄武町PTA連合会との協力のもと実施)			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	家庭教育は乳幼児期などの親子のふれあいによる絆の確立、基本的な生活習慣、善悪の判断などすべての教育の原点であるところ、家庭の教育力の低下が指摘されているため、本事業の実施により教育力の向上が図られる。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	家庭教育学級を開設することで学校、児童、親の3者のふれあいと交流の場の提供ができた。家庭教育講演会は、ダウン症の兄をもつ落語家の講演で、実際に同じ病状にある保護者の参加によりアドバイスを受けるなど、参加者全員で教養を共有し合うことができた。
	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	家庭教育学級では必要最小限で経費の一部を助成しており、自主的な活動等の支援により、事業の効率的な効果が図られている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	家庭教育学級は開設学級の参加者による自主企画・自主運営としており、家庭教育講演会は、一般町民の参加として公平な周知啓発を行っている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
学校と家庭との連携により家庭教育の推進を図る必要があり、多くの学級を開設することで計画通りの事業が実施できた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持 家庭教育の充実を図る事業であり、全学校、保護者、児童の交流の機会を継続して提供することで、情報の共有化が図られるとともに、さらなる家庭教育の向上が期待できる。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 28

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		町民センター施設更新事業				
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
	氏名	高橋健仁			氏名	大和良成
事業の概要	町民センターにおける施設設備において老朽化等の原因による施設の維持管理及び経費削減とともに、町民に利用しやすい施設として計画的に更新改修等を実施する。				全体計画 (平成 21 年度 ~ 24 年度)	
					国・道支出金	1,733 千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	14,661 千円
					事業費計	16,394 千円
実施方法	直営	民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~			
	基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
	単 位 施 策	5	施設・備品の有効活用			
	事務事業の種類		自治事務	法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	1,680 千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	1,565 千円	172 千円	6,760 千円	3,064 千円
	合 計	千円	3,245 千円	172 千円	6,760 千円	3,064 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民センター	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	利用者及び世代層に対応した設備等の整備	大集会室床改修、会議室ジュウタン張替、バリアフリー化工事		指標(指標計算式/解説)	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	利用者のニーズ等に対応した施設内容にすることで、町民に利用しやすい施設環境の構築を図る。	ジェットタオル本体設置	目標年度	22年度	
			目標値	2 台	
			実績値	2 台	
			達成度	100.0 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	利用者のニーズ、時代のニーズに対応した施設の整備と適切な維持管理	ジェットタオル本体設置	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
ジェットタオル設置	1階男女トイレへ1台づつジェットタオルを設置(町内業者による見積合わせ)				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	利用者ニーズ等の変化とともに安全・安心な施設の利用を図るためには、老朽化した設備の整備を計画的に実施する必要がある。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	予定どおりに事業が実施され、利用者のニーズに対応した整備とともに利便性の向上が図られた。
	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	町内業者2社による見積合せにより適切な事業費で効率的な整備を行った。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民センターは一般町民が利用の対象であることから公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
利用の利便性を向上させる事業の実施を図ることができた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持		
引き続き老朽化や利用者のニーズ等に対応した整備の実施が必要である。			
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 29

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		芸術文化公演事業				
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
	氏名	高橋健仁			氏名	大和良成
事業の概要		舞台芸術の機会に恵まれない本町において、児童・生徒等を対象に演劇や音楽などの鑑賞機会を支援し、生の芸術にふれる場をつくり、情操の涵養を図るとともに、芸術への理解を深め地域文化の活性化を図るよう推進している。				全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 300 千円 一般財源 13,075 千円 事業費計 13,375 千円
実施方法		直営	民間委託	その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B	
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~			
		基本施策	14 芸術・文化の振興			
		単 位 施 策	2 芸術・文化活動の促進			
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務		
		その他計画・根拠等				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	159 千円	千円	150 千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	1,156 千円	3,421 千円	1,254 千円	4,240 千円	1,475 千円
	合 計	1,156 千円	3,580 千円	1,254 千円	4,390 千円	1,475 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	限られた事業費で多様なニーズに対応したメニューを設定することが課題である。	鑑賞会開催回数			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	芸術への興味や理解の促進	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
		開催回数	目標年度	22年度	
			目標値	4 回	
			実績値	4 回	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	芸術文化への理解を深めることで、地域における芸術文化への取り組みが活発化し、芸術鑑賞の機会が増える。		達成度	100.0 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
鑑賞会の開催	保育所及び小学1~2年生~人形劇、小学3~6年生(楽器演奏)、中学生(観劇) 高校生(音楽鑑賞)				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	芸術鑑賞の機会が少ないことで、他の地域との芸術文化に関する教養の格差が生じることから、より多くの芸術鑑賞の場を提供し、町民の芸術文化に対する知識等を高めるため必要な事業である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	児童・生徒の学年層に応じた芸術鑑賞の場を提供することができ、芸術文化に対する意識の向上を図ることができた。
	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	限られた予算において、事業執行の工夫を行いつつ、ニーズに沿った事業を実施することにより、芸術文化への意識と教養の向上が図られた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	事業の対象を町内の全児童・生徒(一部幼児を含む)を対象としており、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり事業を実施することができ、期待する実施効果を得ることが出来た。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持 芸術鑑賞を通じて芸術文化に対する教養を身につけ、学校等でその成果が発揮できるよう継続して場の提供をすることが重要であるため事業の継続が必要である。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 30

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		陶芸推進事業					
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係		
	管理職	職名	課長	作成者	係長		
	氏名	高橋健仁			氏名	大和良成	
事業の概要		地域に根付いてきた陶芸文化をより多くの町民がふれあうことが出来るよう、施設の管理体制を整え、維持管理を行うことで、利用の拡大を図る。			全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 3,800 千円 事業費計 3,800 千円		
実施方法		直営	民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B		
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~				
		基本施策	14 芸術・文化の振興				
		単 位 施 策	2 芸術・文化活動の促進				
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務			
		その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	772 千円	726 千円	750 千円	760 千円	760 千円	
	合 計	772 千円	726 千円	750 千円	760 千円	760 千円	

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	陶芸愛好者による自立した活動へのシフト	年間利用者数		指標(指標計算式/解説)	
		年間利用者数		目標年度 22年度	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	陶芸工房管理人体制の現状維持と文化の伝承活動に関わる町民の増加	目標年度	22年度	目標値	600 名
		実績値		実績値	412 名
		達成度		達成度	68.7 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	陶芸文化の継続と文化的な活動の活性化とともに生涯学習の支援を行う	目標年度		目標値	
		実績値		実績値	
		達成度		達成度	%
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
陶芸活動の推進	産業まつり、町民文化祭への作品出店				
管理人配置	陶芸愛好者への指導 (3名配置、週3日間指導)				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	新たな芸術文化の取り組みとして陶芸事業も根付いており、生涯学習支援の面から事業の実施は必要である。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	ある程度の利用者の減少は見込んでおり、大きな変動がないことから、継続した活動が行われている。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由	計画どおりの開設状況であり、自主的な運営も図られて利用者もある程度、定着化している。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	施設の維持管理は町が行っているが、陶芸活動に係る経費(燃料、材料等)は利用者負担であり、負担の公平性が保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
生涯学習の観点に立った、社会教育の重要施策であり、陶芸推進の振興・発展を図るうえで、計画どおり事業を進めることができた。		

今後の展開方向 (Action)			
	継続 / 現状維持		
陶芸事業として定着しているが、活動人数の伸び悩みがあり、全てを利用者が自立して運営することは無理があることから、現状の範囲で支援していく必要がある。			
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 31

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		社会教育関係団体活動費補助事業				
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	高橋健仁		氏名	大和良成
事業の概要	社会教育の推進中核的な組織(文化連盟、子ども育成会、PTA連合会)に対して補助を行い、地域の活性化を促進する。				全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	
					事業費	
				国・道支出金		千円
				地方債		千円
				その他		千円
				一般財源	3,250	千円
				事業費計	3,250	千円
実施方法	直営	民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~			
	基本施策	14	芸術・文化の振興			
	単 位 施 策	2	芸術・文化活動の促進			
	事務事業の種類		自治事務	法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円
	合 計	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	会員の減少による各団体の配下組織の活動の停滞とその活性化支援	3 団体への補助		指標(指標計算式/解説)	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	団体での各種事業実施による地域の活性化	文化連盟 子ども育成会 PTA連合会	目標年度	22年度	
			目標値	3 団体	
			実績値	3 団体	
			達成度	100.0 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	地域コミュニティー(地域力)の強化と町民の文化意識の向上		目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
団体への助成	文化連盟(320千円)、子ども育成会(230千円)、PTA連合会(100千円) (町の財務規則に基づき、適正な助成を図っている)				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	社会教育関係団体への活動支援は重要であり、団体の活動の活性化につながることも、そのことが地域の活性化へも波及する。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	会員数の減少傾向の中、各団体とも計画した事業の実施を図っている。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	各団体の活動状況に応じた、適切な助成を行っている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	各団体とも事業の実施にあたり広く町民に周知しており、多くの町民が参加することで公平性が保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
社会教育団体への助成により官民一体となった事業展開が可能となり、地域の教育力の向上に寄与できる。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持 各団体の会員数等の減少により安定した自主財源の確保が困難な状況下にあることから、通常の活動を維持するために継続した助成は必要である。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 32

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		おうむ通学合宿事業				
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	高橋健仁		氏名	大和良成
事業の概要	子ども達の直接体験の中でも不足している生活に関する基本的な知識・技能・習慣についての支援補完をするため、地域の施設を活用して、家庭を離れ学校に通いながら一定の期間を異年齢の集団の中で共同生活を行う。				全体計画 (平成 22 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 千円 事業費計 千円	
実施方法	直営	民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~			
	基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
	単 位 施 策	3	青少年教育の推進			
	事務事業の種類	自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円
	合 計	千円	千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	事業展開が可能な施設の確保及び指導者等の地域ボランティアの体制整備	生活体験等の実施 (試行)				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	子ども達の直接的な体験(生活体験、自然体験、文化体験)との関わりについて異年齢の共同生活を通じて支援する。	調査	指標(指標計算式/解説)			目標年度 22年度
						目標値 1 式
						実績値 1 式
						達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	子どもの自立心や生活力の向上、協調性、社会性が養われるとともに、大人を含めた町民の交流等を深め、地域づくりにつなげる。		目標年度			
						目標値
						実績値
						達成度 %
内 容 (どのような手段で何を行ったか)						
調査	町が取得した雄武農業開発事業所(宿舎)の有効活用としての事業利用の検討の他、人的体制等の対応方策をはじめ事業化の可能性を含めた検討を行った。					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	現段階において事業自体の必要性があるとの認識に立ち試行的実施にむけ調査を進めた。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	平成23年度からの実施(試行)に向けて調査し、事業の必要度を精査することができた。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	コストをかけずに調査を実施し、一定の成果を上げることができたことから効率的である。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	全児童を対象に調査検討を図ったことにより公平性は保たれた。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
調査検討を進めてきたところであるが、試行的実施にむけ、引き続き調査を要する。		

今後の展開方向
(Action)

継続 / 内容の見直し・変更		
事業実施に必要な施策の確保や事業化要件のさらなる調査・見直しにより、再検討を図る。		

*展開方向の区分

継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 33

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		遠紋地区社会教育委員等研修会				
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	高橋健仁		氏名	大和良成
事業の概要		遠紋地区の社会教育委員等を対象とした研修会の開催			全体計画 (平成 22 年度 ~ 22 年度) 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 千円 事業費計 千円	
実施方法		直営	民間委託	その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業		非登載事業	優先度	B
事業の位置付け		政策目標	3	のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~		
		基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進		
		単 位 施 策	1	推進体制の強化		
		事務事業の種類		自治事務	法定受託事務	
		その他計画・根拠等				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円
	合 計	千円	千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	社会教育委員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	網社連からの配当予算が少ないことから講演会講師等の選定に苦慮する。	講演・ワークショップ			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	社会教育委員の役割を認識し、自ら生涯学習を実践し、資質の向上を図る。	指標(指標計算式/解説)	講演・ワークショップ	目標値及び実績値	
				目標年度	22年度
				目標値	1回
				実績値	1回
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	研修会を通じて学んだ成果を地域において実践することで、社会教育委員自らの資質の向上へとつながる。			達成度	100.0 %
				目標年度	
				目標値	
				実績値	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
講演会 ワークショップ	講演会「人間らしく生きる時代を拓く社会教育委員のあり方」 北海学園大学教授 内田和浩 ワークショップ「人間らしく生きる時代を拓く社会教育委員のあり方」を一緒に考えよう				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	社会教育委員の役割を認識し、自らの資質の向上を図るため必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	基調講演及びワークショップともに社会教育委員の資質の向上に相応しい内容であり大変有意義な事業であった。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	網社連からの助成金と参加負担金で運営しており、限られた予算で研修会を開催し、一定の効果が得られた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

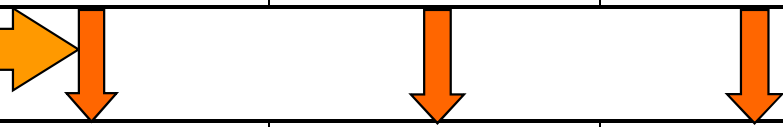
(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	参加者全員から参加負担金を徴収しており、研修成果は町民に還元されることから公平性が保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり事業を実施し、参加者の研修の場の確保ができた。		

今後の展開方向 (Action) 	終了		
	市町村の輪番による開催であり、今後数年は開催予定がないため、終了扱いとする。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 34

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		郷土資料館整備事業				
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	高橋健仁		氏名	大和良成
事業の概要		町民から寄贈があり、保管している郷土資料の活用を図るために、既存施設の有効活用を含んだ展示施設の整備について検討を図る。			全体計画 (平成 22 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 千円 事業費計 千円	
実施方法		直営	民間委託	その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業		非登載事業	優先度	C
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~			
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進			
		単 位 施 策	5 施設・備品の有効活用			
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務		
		その他計画・根拠等				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円
	合計	千円	千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	郷土資料	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	町民のニーズに対応した展示施設の確保	調査及び整備			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	保存している郷土資料を展示解放することにより多くの町民に文化・歴史に関する機会に触れさせることができ、生涯教育の向上につなげることができる。	調査	目標値及び実績値		
			目標年度	22年度	
			目標値	1 式	
			実績値	1 式	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	町の文化・歴史に関する共通した認識を共有することができる。		達成度	100.0 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
既存施設調査	庁舎別館の建設により福祉センター等の活用が可能となった。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	更なる調査検討が必要である。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	既存施設の活用についての検討が図れた。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	既存施設を活用することでコスト削減の検討が図れる。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民を対象に施設を開放する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
主な既存施設の活用等が不可能な状況にあることから新たに展示施設の確保について検討を図る。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 拡充		
既存施設の有効活用のみではなく、新たな社会教育関連施設整備において複合的な利用を含め検討する必要がある。			
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 35

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		社会体育団体活動費助成事業				
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査
		氏名	高橋健仁		氏名	佐藤公輔
事業の概要		本町の生涯スポーツ活動の中核的な役割を果たしている体育連盟・スポーツ少年団の育成やスポーツを通して地域の活性化や将来の指導者を養成するため、団体の活動に対し、助成するものである。			全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 2,700 千円 事業費計 2,700 千円	
実施方法		直営	民間委託	その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け		政策目標	3	のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~		
		基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進		
		単 位 施 策	1	推進体制の強化		
		事務事業の種類		自治事務	法定受託事務	
		その他計画・根拠等				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	540 千円	540 千円	540 千円	540 千円	540 千円
	合 計	540 千円	540 千円	540 千円	540 千円	540 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民(スポーツ団体)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	町民のスポーツ離れ等による加盟単位協会や会員の減少と活動の低下。	現加盟団体の維持	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	一人でも多くの町民が単位協会への加盟とスポーツ活動の積極的な参加を目指す。	体育連盟16協会	指標(指標計算式/解説)
			目標値及び実績値
			目標年度 22年度
			目標値 16 協会
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	指導者養成を行い、スポーツの普及と地域の活性化を図る。	スポーツ少年団4団体	目標年度 22年度
			目標値 4 団体
			実績値 4 団体
			達成度 100.0 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
体育連盟、スポーツ少年団への補助	予算・決算・実施事業等の実績報告書を求め、内容を精査し補助する。 体育連盟400千円、スポーツ少年団140千円		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	本町の生涯スポーツを推進する基幹団体であり、スポーツ活動を通して町民の交流を深めるとともに、将来の指導者を養成することも目的としている。また、町の活性化にもつながるため、これら団体を育成・支援することが必要である。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	各団体の単位協会加入者は年々減少傾向にあるが、現在、体育連盟600名、スポーツ少年団100名(指導者含む)にて活動しており、町内外の各種大会へも積極的に取り組んでいる。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	各団体の事業に対し適切な活動費の助成を行っている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	実績報告書等を助成して助成しており、各種団体の事業については、広く町民に窓口を広げ、参加促進を図っている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本町のスポーツ活動の中心的役割を果たしている団体への補助は、生涯スポーツを推進するうえで重要である。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持		
スポーツは、社会の活性化を促進させるとともに、人と人、地域と地域の交流や親睦を深める最高の手段である。また、子ども達にとっても協調性や競争意識などを養える学習の場でもあり、今後もこれらの助成は継続が必要である。			
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更	終了	休止	廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 36

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		スポーツ大会推進事業																									
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係																					
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査																					
		氏名	高橋健仁		氏名	佐藤公輔																					
事業の概要		町民の健康維持、体力づくりの奨励とスポーツを通じて、地域、世代間の交流・親睦を図るため各種スポーツ大会を開催する。			<table border="1"> <tr> <td colspan="2">全体計画</td> <td colspan="2">(平成 20 年度 ~ 24 年度)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">事業費</td> <td>国・道支出金</td> <td></td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>2,050</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費計</td> <td>2,050</td> <td>千円</td> </tr> </table>		全体計画		(平成 20 年度 ~ 24 年度)		事業費	国・道支出金		千円	地方債		千円	その他		千円	一般財源	2,050	千円	事業費計		2,050	千円
全体計画		(平成 20 年度 ~ 24 年度)																									
事業費	国・道支出金		千円																								
	地方債		千円																								
	その他		千円																								
	一般財源	2,050	千円																								
事業費計		2,050	千円																								
実施方法		直営	民間委託	その他 ()																							
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	B																						
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~																								
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進																								
		単位施策	2 学習・スポーツ活動の推進																								
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務																							
		その他計画・根拠等																									
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)																					
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円																					
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円																					
	その他財源	16 千円	11 千円	9 千円	千円	千円																					
	雄武町負担額 (一般財源)	347 千円	354 千円	342 千円	400 千円	410 千円																					
	合計	363 千円	365 千円	351 千円	400 千円	410 千円																					

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	大会の参加者が年々減少しており、参加促進が課題である。	参加者数の確保		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	大会参加後の各団体・グループでの単独開催。	指標 (指標計算式 / 解説)	目標値及び実績値	
		大会参加者	目標年度 ^{22年度}	
			目標値	600 人
			実績値	523 人
		達成度	87.2 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	仲間づくりや各世代間の交流を深めるとともに、自ら計画・実践を行う。		目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
各種スポーツ大会の開催	町広報、新聞チラシ等による周知後申込受付。種目によっては参加負担金を徴収して開催。(オリンピック、雪合戦、自治会対抗パークゴルフ大会、キンボール、さわやかスポーツ)			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	少子・高齢が進む中、本町においてもスポーツ人口は減少しており、スポーツを全く行わない町民の解消のため、本事業は必要である。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	軽スポーツ大会を開催することにより、幅広い年齢層の参加者が得られる。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	予算措置については必要最小限で行っており、参加費の徴収も行いながら効率的な事業実施を図った。
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	対象は一般町民であるため、広く町民に呼びかけ、参加者促進を進めたことから、公平性は保たれている。
公平 / 概ね公平 / 公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民の期待度が高いプログラム設定を行い、多くの参加者を確保しているが、今後は新たな内容も盛り込むよう検討しながら進めていく。		


今後の展開方向
 (Action)

継続 / 現状維持		
スポーツは健全な精神と身体を養成し、心豊かな生活を過ごす上からも必要不可欠なものであり、今後もスポーツ機会の提供と継続は必要である。		

* 展開方向の区分

継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 37

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		雄武町スポーツ振興事業																									
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係																					
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査																					
		氏名	高橋健仁		氏名	佐藤公輔																					
事業の概要		各種スポーツの全国・全道大会へ出場する個人、又は団体へ経費の一部を補助する事業である。			<table border="1"> <tr> <td colspan="2">全体計画</td> <td colspan="2">(平成 20 年度 ~ 24 年度)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">事業費</td> <td>国・道支出金</td> <td></td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>2,000</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費計</td> <td>2,000</td> <td>千円</td> </tr> </table>		全体計画		(平成 20 年度 ~ 24 年度)		事業費	国・道支出金		千円	地方債		千円	その他		千円	一般財源	2,000	千円	事業費計		2,000	千円
全体計画		(平成 20 年度 ~ 24 年度)																									
事業費	国・道支出金		千円																								
	地方債		千円																								
	その他		千円																								
	一般財源	2,000	千円																								
事業費計		2,000	千円																								
実施方法		直営	民間委託	その他 ()																							
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B																						
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～																								
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進																								
		単位施策	2 学習・スポーツ活動の推進																								
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務																							
		その他計画・根拠等																									
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)																					
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円																					
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円																					
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円																					
	雄武町負担額 (一般財源)	610 千円	20 千円	54 千円	400 千円	400 千円																					
	合計	610 千円	20 千円	54 千円	400 千円	400 千円																					

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民(スポーツ団体)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	個人・団体への経費軽減による大会参加の促進。	大会出場の個人・団体	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	スポーツ活動のよりレベルアップの高い競技意識の喚起と積極的な上位大会への参加。	出場種目 個人	指標(指標計算式/解説)
			目標年度 22年度
			目標値 1 種目
			実績値 2 種目
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果=目的	充実したスポーツ活動の推進、競技志向の高揚を目指す。	出場種目 団体	目標年度 22年度
			目標値 1 団体
			実績値 0 団体
			達成度 200.0 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
個人・団体への出場経費の補助	全国・全道大会へ出場する個人・団体からの申請書提出後、要綱に基づき審査を行い助成した。(個人:空手、パークゴルフ)		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	全国・全道大会は、開催地等により個人負担は増額となる。これらの大会に出場することは、本町のPR効果も十分に果たすものであり、一部の助成は必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	競技者への負担を軽減することにより、積極的な参加が図られ、競技スポーツの向上につながった。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	年度によって交付件数に増減があるものの、事業は効率的に推移している。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	大会成績により補助しており、事業趣旨に基づいた公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業は、本町の競技スポーツの向上と参加促進につながり、特に子ども達には競技意識の高揚につながった。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持 スポーツ活動の推進とともに、レベルの高いアスリートや将来の指導者の養成といった観点から、今後も継続が必要である。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 38

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		スポーツ教室推進事業				
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査
		氏名	高橋健仁		氏名	佐藤公輔
事業の概要		町民や学校週5日制による余暇時間の増えた子ども達に広くスポーツに親しむ機会や健康を維持する学習活動を提供するため、各種スポーツ・学習教室を開催する。			全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 1,200 千円 事業費計 1,200 千円	
実施方法		直営	民間委託	その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~			
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進			
		単位施策	2 学習・スポーツ活動の推進			
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務		
		その他計画・根拠等				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	23 千円	21 千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	141 千円	104 千円	129 千円	230 千円	240 千円
	合計	164 千円	125 千円	129 千円	230 千円	240 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	参加者の固定・減少化を解消していくための、スポーツ参加の促進。	参加者	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	子どもから一般まで一人でも多くスポーツに親しむことを目指す。	指標(指標計算式/解説)	参加者
		目標値及び実績値	目標年度 ²² 年度
		目標値	250 人
		実績値	249 人
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	スポーツ意欲の向上とともに、体を動かすための楽しさと爽やかさ、運動後の体のケアを自己管理する。	達成度	99.6 %
		目標年度	
		目標値	
		実績値	
達成度 %			
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
各種教室の開催	町広報、学校、新聞チラシ等による周知を行い、体育指導委員、体育連盟等の指導者協力を得て開催。(わんぱく道場、AED、ジュニアスクール、ブルームボール教室)		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	子どもから大人まで気軽にスポーツに親しむ機会が減少しており、生涯スポーツの推進を図るためにも各年齢層のスポーツ活動の参加を促進させる必要がある。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	幅広い年齢層の活動促進がなされ、事業終了後も独自で活動を行うなど、町民ニーズに沿ったプログラム提供ができた。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	町内関係者が指導することにより、低予算で実施することができた。また、外部指導者を招いた場合においても、比較的 low budget で行うことができ、効率的に実施している。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	対象は一般町民であることから、広く町民に呼びかけ、参加促進を進めたことから公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平 / 概ね公平 / 公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民の健康・体力づくりに寄与するためには必要な事業であり、町民のニーズを把握しながら実施した。		

今後の展開方向 (Action)	↓		
	継続 / 現状維持		
	ニュースポーツと健康体操は、町民ニーズに合った事業展開であるが、継続するためには指導者の育成・確保が不可欠である。また、ブルームボールが町の奨励スポーツとなり、更なる事業展開の方策検討のため継続が必要である。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 39

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		社会体育施設委託業務事業																				
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係																
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査																
		氏名	高橋健仁		氏名	佐藤公輔																
事業の概要		本町の生涯スポーツの推進に寄与すべく主要な体育施設の適正な管理を民間業者等に委託するものである。			<table border="1"> <tr> <td colspan="2">全体計画</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(平成 20 年度 ~ 24 年度)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">事業費</td> <td>国・道支出金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>39,770 千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費計</td> <td>39,770 千円</td> </tr> </table>		全体計画		(平成 20 年度 ~ 24 年度)		事業費	国・道支出金	千円	地方債	千円	その他	千円	一般財源	39,770 千円	事業費計		39,770 千円
全体計画																						
(平成 20 年度 ~ 24 年度)																						
事業費	国・道支出金	千円																				
	地方債	千円																				
	その他	千円																				
	一般財源	39,770 千円																				
事業費計		39,770 千円																				
実施方法		直営	民間委託	その他 ()																		
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B																	
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~																			
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進																			
		単 位 施 策	5 施設・備品の有効活用																			
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務																		
		その他計画・根拠等																				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)																
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円																
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円																
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円																
	雄武町負担額 (一般財源)	8,707 千円	9,753 千円	6,536 千円	6,750 千円	6,750 千円																
	合 計	8,707 千円	9,753 千円	6,536 千円	6,750 千円	6,750 千円																

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	良好な施設の維持管理	年間利用者数		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	利用者数の増加と快適な施設利用。経費削減。	各スポーツ施設の年間利用者数	指標(指標計算式/解説)	
			目標年度	
			目標値	10000 人
			実績値	14636 人
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	本町のスポーツ活動の活性化と健康増進を図る。職員の労務管理の軽減。体育施設運営費のコスト削減。		達成度	146.4 %
			目標年度	
			目標値	
			実績値	
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
各体育施設の管理委託	指名競争入札により業者を決定し、各維持管理業者に委託した。(スポーツセンター、武道センター、学校開放事業)			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	各施設において不特定多数の出入りがあり、利用受付、備品貸出等の業務が発生するため、管理人の常駐は必要であり、町民の健康維持増進・交流の場として活用されているため、本事業は必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	施設の適正かつ安全管理に充分注意しており、良好な状態を保持していることから、利用者からの評判も良い。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	教育施設管理を一本化することにより、コスト削減につながっている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	利用者の施設利用と備品貸出業務等の維持管理業務であり、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
利用者の利便性向上や学校教育活動の支援ができた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持 町民ニーズに沿った維持管理が行えることから、施設管理は継続して行っていく必要がある。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 40

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		農村広場改修事業					
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係		
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査	
	氏名	高橋健仁			氏名	佐藤公輔	
事業の概要		農村広場(野球場)の維持管理するうえで、計画的に更新改修するものである。			全体計画 (平成 22 年度 ~ 23 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 2,692 千円 事業費計 2,692 千円		
実施方法		直営	民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	A		
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
		単 位 施 策	5 施設・備品の有効活用				
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務			
		その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額(一般財源)	千円	千円	3,938 千円	1,600 千円	千円	
	合 計	千円	千円	3,938 千円	1,600 千円	千円	

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	農村広場(野球場)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	経年劣化等により、施設の安全確保等に支障が生じている。	内野等の改修、ベース位置測量、土補充				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	施設を更新することにより、安全に利用できる。	ベース位置等測量、設置	指標(指標計算式/解説)			目標値及び実績値
			目標年度	22年度		
			目標値	1 式		
			実績値	1 式		
			達成度	100.0 %		
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果=目的	利用者への利便性向上と適正な維持管理が図られる。	ダイヤモンド内土補充	目標年度			22年度
			目標値	1 式		
			実績値	1 式		
			達成度	100 %		
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
改修工事	指名競争入札により業者を決定した。					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	施設の適正利用を図るためには、計画的に整備を実施する必要がある。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	施設利用者の安全が確保され、安心して利用できる体制が整った。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	適切な予算執行により、快適な施設として町民が利用できるよう、計画的に老朽化の解消を図っている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	利用者の安全確保のための事業であり、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
利用者の安全性の向上を図るためには、施設改修整備は重要であり計画どおり実施ができた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持 老朽化した施設の整備を継続して実施していく必要がある。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 41

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		パークゴルフ場東屋移設事業					
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	生涯教育係		
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査	
		氏名	高橋健仁	氏名	佐藤公輔		
事業の概要		風の丘パークゴルフ場内に東屋を設置し、利用者の休憩場所と安全対策を図る。			全体計画 / 単年度のみ (平成 22 年度 ~ 22 年度)		
					事業費		
					国・道支出金	千円	
					地方債	千円	
					その他	千円	
					一般財源	6,000 千円	
					事業費計	6,000 千円	
実施方法		直営	民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B		
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~				
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
		単位施策	5 施設・備品の有効活用				
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務			
		その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	2,363 千円	千円	千円	
	合計	千円	千円	2,363 千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	利用者の施設利用による安全の確保等が必要である。	東屋移設	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	野外施設を安心して利用できるよう整備を図る。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
		東屋移設	目標年度 22年度
			目標値 1棟
			実績値 1棟
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果=目的	パークゴルフ場東屋移設事業		達成度 100.0 %
			目標年度
			目標値
			実績値
			達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
休憩施設に伴う移設工事	指名競争入札により業者決定。		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	施設利用者の安全性や利便性の向上を図るのには、事業の実施が必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	計画どおりに事業が実施でき、安心して施設を利用できる体制が整った。
	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	既存施設を移設し再利用を図ったことにより効率的に実施している。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	利用者の利便性と安全性の確保を目的に実施した事業であり、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
危険回避と快適な休憩場所の確保等の施設整備が図られた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	終了		
事業の目的が達成されたことによる終了			
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 42

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		スポーツ等合宿招致調査研究事業					
評価者	担当課名		教育振興課		担当係名	生涯教育係	
	管理職	職名	課長		作成者	職名	
		氏名	高橋健仁			氏名	佐藤公輔
事業の概要		スポーツ人口の減少とともにスポーツ団体の事業状況も年々低くなってきており、改善方策としてスポーツ意識の刺激等につながるスポーツ等合宿の招致について調査研究を行う。				全体計画 (平成 22 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 千円 事業費計 千円	
実施方法		直営	民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	C		
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
		単位施策	2 学習・スポーツ活動の推進				
		事務事業の種類	自治事務		法定受託事務		
		その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額(一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円	
	合計	千円	千円	千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	大学、実業団等のスポーツチーム	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	スポーツ人口の減少及びスポーツ団体による事業実施の低迷。	調査研究		指標(指標計算式/解説)	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	スポーツ等合宿招致に係る事業化可能性の調査研究。	調査研究		目標値及び実績値	
				目標年度	
				目標値	1 式
				実績値	1 式
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果=目的	スポーツ等合宿招致に係る事業化の可能性についての方向性の確立。	調査研究		達成度	100.0 %
				目標年度	
				目標値	
				実績値	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
調査	先進地等における調査及び資料収集。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

概ね必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	本町のスポーツ振興及び新たな方策の可能性となるスポーツ等合宿招致の調査は必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	大学や実業団等のスポーツチームの招致に向けて調査を実施し、必要性等の検討を図ることが出来た。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	コストをかけずに調査を実施することで、効率性が確保された。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	調査研究が目的であるため、公平性は保たれた。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
インターネット等により各市町村の取り組み状況の調査等を行った。		

今後の展開方向 (Action)	↓ ↓ ↓		
	継続 / 現状維持 スポーツ等合宿招致の方向性を確立していくため、継続的な調査が必要である。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 43

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		スポーツセンター整備事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査	
		氏名	高橋健仁		氏名	佐藤公輔	
事業の概要		スポーツセンターの老朽化に伴い、計画的に更新整備するものである。			全体計画 (平成 22 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 350 千円 事業費計 350 千円		
実施方法		直営	民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	B		
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~				
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
		単 位 施 策	5 施設・備品の有効活用				
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務			
		その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	338 千円	千円	千円	
	合 計	千円	千円	338 千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	スポーツセンター	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	休養スペースの利便性確保。	絨毯張替え			
		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	衛生的利用と交流の場づくり。	絨毯張替え			
		目標年度			
		目標値	1 式		
		実績値	1 式		
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	休養スペースを改修したことにより、利用者の利便性が高まる。	達成度	100.0 %		
		目標年度			
		目標値			
		実績値			
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
絨毯張替え工事	スポーツセンターロビー絨毯張替え。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	施設のリラクゼーションスペースの提供のため必要である。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	交流の場が整い、心地よい利用により町民の利便性が向上した。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		適切な予算執行により、快適な施設として町民が利用できるよう、計画的に老朽化の解消を図っている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり			

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		競技者及び観覧者の利便性のための事業であり、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない			

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
利用者の利便性の向上を図るために、施設整備は重要な事業として実施ができた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続 / 現状維持			
町民利用の促進を図るため、老朽化した施設の整備は継続して実施していく必要がある。			
* 展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--